

研究

佐伯城 建築考

一 櫓門の修理につながることに

会員 小野 英 治

佐伯城の建築については、かつて「豊後佐伯城の研究」
「佐伯城絵図解説」等で、「佐伯史談」誌に発表してい
ますが、今回はその補足、従来解明出来なかつた点につ
いて考察してみました。

最近、三の丸櫓門の修理が完成して、美しい姿をみせ
ています。この城門の正式名称は、「三の丸櫓門」です
が、これは、古文書類にそうあるからであり、構造上か
らいえば「渡櫓門」といふべきなのです。

城山頂上の山城部の、二の丸と西出丸の間にも、これ
と同構造の櫓門がありますが、これは「渡櫓」と空永年
間の修理図には明記していません。それは三の丸櫓門と区
別する上から、こうなったものと考えられますが、江戸



(櫓門門)



(渡櫓門)

城の古図によれば、このような構造
をもつ城門を「渡櫓」として統一し
ていますから、これでもよかつたか
ですが、元来「櫓門」「渡櫓」「渡
櫓門」は、各々別のものです。

つまり櫓門は、石垣と石垣へ櫓を
架け渡して、その下を門としたもの
といわれていますが、石垣と関係な
く、上部が櫓で下部が門となってい
る城門も、櫓門と呼称されています。

もつともこれは「櫓
門」
別されてはいますが、
広義に目櫓門に含ま
れます。

渡櫓は、櫓と櫓、
石垣と石垣、郭と郭
を連絡する櫓で、構
造上から城門とは無
関係といふべきでし
ょう。

渡櫓門こそ、石垣と石垣に櫓を渡
し、その下を城門としたものなので
すが、これが後に略されて、たゞ単
に櫓門となつたり、渡櫓となつたそ
のと考えればよいと思ひます。

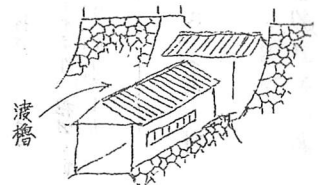
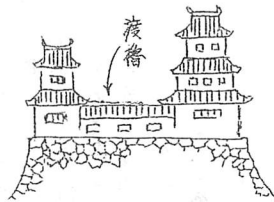
そして江戸時代諸大名の公文書には、構造に關係なく
城門で二階以上あるものを櫓門、単層のものはすべて冠
木門と呼称し、一応統一していたようです。

これは、最小限必要事項を知らばよいとした、今でい
う事務簡素化のあらわれでしょう。

ですから、冠木門と記されていても、本来の冠木門は
極めて少なく、高麗門・薬医門・棟門等がほとんどでし
た。もつとも、両柱の上に木を横たえたものを冠木と称
してはいますから、広義には高麗門・薬医門・棟門等も冠
木門に含まれないことはないと考えられます。

佐伯城も単層門はこれをすべて冠木門と記しているの
は、以上のような理由であり、純粋な冠木門ではなく、
現在絵図から推測して、薬医門がほとんどであつたとい

渡櫓 (三種)

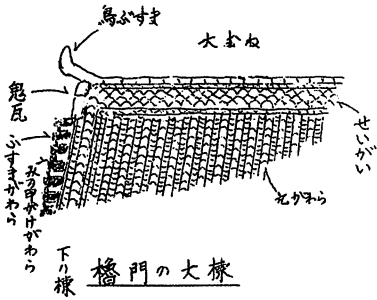
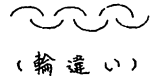
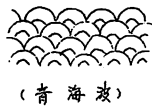
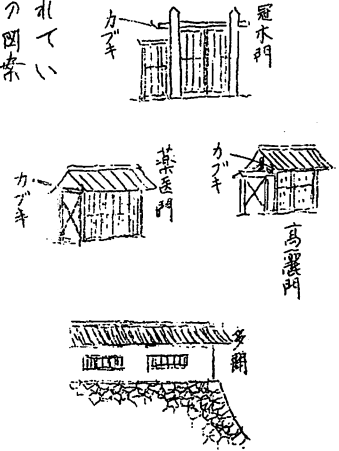


えるようです。

(下図参照)

次に三ノ丸橋門の大棟の「かしがあら」に、装飾として「せいがい」と呼ばれる瓦が使用されてい

ますが、これは青波の四角からきたものではないでしようか。つまり波の連続する葺に似ています。(四段参照)こゝには、単なるかしがあら及びであつたり、菊丸がわら、輪ちがい等で装飾されるところです。



つかに、これは吉田家伝承古図に示されることですが、本丸には「駕籠塀」、二の丸に「廊下塀」という名称があります。両者とも佐伯城独自の名称のようですが、先づ駕籠塀についていえど、駕は材木の意味もあり、籠はこめるという意味があるから、材木をもつて作つた塀ということですが、吉田家伝承古図等からみて、現在、伊豫松山城のような下見板張塀へ主要部は材木による構造とみてよいようです。

つきに「廊下塀」は、塀を大きくした内部が通行出来る、城郭用語でいう多聞の小規模なもの

のと、古図・現状から推測されます。これは二の丸に限って設けられていたもので、塀の強化されたものですか、それだけ二の丸が重要視された郭であつたことを物語るものといえます。

なお、佐伯城の塀は三の丸の一部土塀を除けば、大部分がこの駕籠塀でありました。これは、土塀が堅固を反面、大量の土と瓦を必要とし、かつ工事期間も延長するということになりす。山城でもあり、資材節約、工事期間の短縮等を考慮されて、この下見板張(駕籠)塀の採用されることとなつた要因の一つではなかつたかと私は考えています。

(おことわり)

前号「小野氏執事」...「橋門昭和の修理」...の文中、次の三点にミスプリントがありました。これは編集者のうっかりしてのことです。訂正下さい。

2ページ下段最終行「瓦当でカ」とあるべきとて「か」とふりがなをきつめる。

瓦当はかとうというのだそうです。したがって3ページの図の瓦当で、とて下さい。(下図参照)



3ページ上段終りから10行目の「また、組は...から次の行のうけましたので、...までを削つて下さい。」(瓦の寄附はありましたが都合により使用保留、格納しています) ページ下段 二行目「三センチ」とあるは大変なおやまり、検査の風蝕は百年に三センチです。原紙きりの際のかかりました。

黄なる花の光るや椋椈のいなきに (五 畔)
 こもりこもり満山すべて推の花
 この家にも竹の子の土間にころがりて